

歯痛地蔵・寺田石棺仏のふるさと竜山を訪ねて 1月24日

歯痛地蔵さんが市指定文化財に指定されたのを記念して1月24日、石棺のふるさと、高砂市の宝殿を訪れました。城陽駅を9時29分に出発、京都駅・大阪駅で合流し参加者は合わせて4人。竜山石の産地は最寄り駅がJR宝殿駅、明石を過ぎると播州平野が広がり、ときどき瀬戸内海が見えるのどかな風景になります。11時24分に到着。



宝殿駅前から日本三奇のひとつ石の宝殿(生石神社・おいしこじんじゃ)へはまっすぐな道が続きます。付近の道標や塀などに竜山石が使われているようです。神社までは30分ほど、鳥居も階段も竜山石、拝観料100円を投入して石の宝殿(通称 浮石)を拝見。幅と奥行きが7m、高さ6m、重さは推定500トンの巨岩が水に浮いているように見える。ぐるりと周囲を廻り、横の階段を登り上からも巨岩を見ると巨大さがさらに実感できます。この石の宝殿を御神体に行しているのが生石神社、この付近は1700年以上前から採石が続けられています。現在も採石されている業者は3社、その一つ、松下石材店の作業場を訪ねました。

作業場は神社から15分ほどのところ、会長の松下典生さんが「社長から聞いているので自由にご覧ください」とのこと。広い敷地で端が切り立って「左 石の宝殿」いて崖になっている石切り場を見て回りました。松下会長は、会社は操業明治5年竜山石の山元、今の社長は6代目になるとか。石の切り出しは筋目を見極めてエアードリルで穴をあけそこに紙封筒に入れた黒色火薬を使って切り出すのだと言う。夏は暑く、冬は寒い厳しい作業環境なので若い人がなかなか来てくれないのが悩みだが、お孫さんが大学で石の彫刻を学んでいると嬉しそうに話してくれました。お土産に円盤状の竜山石を頂き、石切り場を後にしました。



松下石材作業場、左端は松下会長

現在の採石場から昔の採石場へと言うことで加茂神社から観涛處(かんとうしょ)へ登り、付近にある矢穴が開けられている竜山石をいくつも見て帰路につきました。

*石の宝殿と竜山採石遺跡は2014年10月に国の史蹟に指定されました (杉浦 記)

歯痛地蔵・寺田石棺仏のふるさと竜山を訪ねて1月24日/竜山石の現地見学会/歯痛地蔵のふるさと生石神社と竜山石を訪ねて/石の宝殿の感想/『百舌鳥・古市政権と環巨椋地域政権—古川・大谷川集団と久津川古墳群を中心に—』の講演内容報告/水度神社で合同消火訓練 1月27日/トウキのつ帰/会の活動・短信/寄贈図書を紹介/令和8年粥占いの結果/荒見神社の「節分星祭り」と節分の様子/文全協歴史講座(都出比呂志さん追悼)3月8日龍大・大宮学舎他